NEWS LETTER

# The Asubashi Times

一般社団法人アスバシ
名古屋市熱田区沢下町8-5

VOL.1 No.1　すべての高校生に越境体験を　SEPTEMBER 20, 2023

## 高校生と企業人がインターンシップの学びと成果を共有

### 9月17日、『マイチャレンジ・インターンシップ2023報告会』を開催

マイチャレンジ インターンシップ 2023

高校や企業等と連携して高校生のキャリア教育をコーディネートする一般社団法人アスバシは17日、南山高等学校・中学校男子部（名古屋市昭和区）において今夏の高校生インターンシップを総括する『マイチャレンジ・インターンシップ報告会』を開催、インターンシップに参加した高校生や高校時代にインターンシップを体験した大学生をはじめ、企業・団体や高等学校等の関係者らが参加して、高校生有志が発表する〝インターンシップにおける気づきと学び〟の報告に耳を傾けました。

3連休の中日（なかび）にもかかわらず、報告会には途中退場/参加を含めて80名弱の方々が参加、グループワークでは楽しそうに高校生と意見を交わし、全体ディスカッションでは積極的に発言を求めるなど、会場を大いに盛り上げてくださいました。また、ゲストとしてお招きした本間正人氏（京都芸術大学・社会構想大学院大学客員教授）と渡辺美香氏（CBCアナウンサー）、アスバシの代表理事を務める毛受芳高によるフリートークでは、本間氏の〝神業〟とも言えるファシリテートが炸裂、会場全体を巻き込んで報告会は一転フォーラムディスカッション状態に。大人はもちろん、高校生や大学生にとっても〝気づき〟と〝学び〟を深める時間となりました。改めてご参加いただいた方々に御礼申し上げます。

最後までお付き合いいただいたみなさん。 お疲れ様でした！

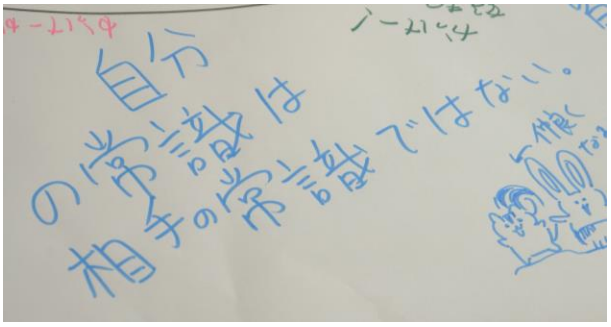
### 『マイチャレンジ・インターンシップ2023』の報告から

毎年、多くの企業・団体等の協力を経て学校の夏季休業期間中に実施される「マイチャレンジ・インターンシップ」。過去7年間に90校以上500名を超える高校生が参加、今年も29校59名の高校生（1～3年生）が高校生キャリアサポートネットワークCSN登録団体を含む28の事業所で就労を体験しました。ご協力いただいた企業・団体のみなさん、ありがとうございました。

アスバシでは、8月26日に事後学習を実施、インターンシップ生がインターンシップでのそれぞれの〝気づき〟と〝学び〟を共有、発表しました。「お客様第一主義」「職人気質」「プロ意識」といった印象・感想をはじめ、「コミュニケーションに少し自信が持てるようになった」「今までとは違う視点で物事を見ることができるようになった」「相手のことを考えることが大切」のように自己理解や他者理解を深めることができた点など、全員がインターンシップ前の事前学習から自分が大きく成長したことを実感できたようです。特に、写真右下の〝気づき〟は、その数日前、一般社団法人SCIフォーラムで中部国際空港株式会社の中堅社員の方が越境体験をした際の〝気づき〟として発表された内容と全く同じでした。これは、高校生のインターンシップが〝気づくべきことに気づくことができる〟機会であることを予定調和的に示した証左ではないでしょうか。

「マイチャレンジ・インターンシップ」を通じて、高校生のインターンシップが企業の未来を担う若い世代のキャリアを形成する初期段階において、大きな可能性と重要な役割を秘めていることを改めて認識できたと考えます。

振り返りのための事後学習（8月26日、労働会館）




事後学習で高校生が書き記した〝気づき〟と〝学び〟

NEWS LETTER

一般社団法人アスバシ
名古屋市熱田区沢下町8-5

VOL.1 No.1 SEPTEMBER 20, 2023

## 「インターンシップはWin-Winの関係」

ご存じの通り、アスバシが推進するインターンシップは、単なる職場体験でもなければ、高校生の就職活動や就職を目的としたものではありません。高校生が自分自身の〝殻〟やテリトリー、身近なコミュニティから一歩〝外の世界〟に踏み出し、職場という未知のコミュニティの中でいろいろな「出会いと挑戦」を体験することを通して、自己理解や他者理解を深め、「就労の意味」「仕事に対する責務と社会貢献」「働くことの楽しさや面白さ」を学ぶとともに、自身の適性や将来の進路を考えるきっかけにする「越境体験」が目的になっています。企業等にとっても、このインターンシップは選考や採用を目的としたものではなく、高校生への職業指導を通じて若手の人材教育や人材育成のノウハウなどを学ぶ機会、あるいはイノベーションのヒントを得るための機会にもなっています。これは、本間正人氏が今回のフリートークでも語ったように「インターンシップは（参加する側と受け入れる側の双方にとって）Win-Winの関係になっている」ことの証左でもあります。また、同氏は「インターンシップはクロスオーバーキャリアの第一歩である」とし、高校生にも企業人にも「出会うことを諦めない」姿勢を強調、今後も高校生インターンシップが推進されることを期待されていました。また、渡辺美香氏も、高校生や企業人のコメントに対して「自分も封印していた夢を開放してみたくなった」と呟き、インターンシップが高校生だけでなく大人である企業人にも多くの可能性が秘められていることを示唆、会場内の多くの人が頷くシーンも見られました。これこそ、高校生インターンシップに秘められた可能性を端的に表現した言葉であると言えるでしょう。

短い時間ではありましたが、報告会という「枠」を超えて、参加した一人ひとりが高校生インターンシップに多くの気づきと学び、そして自信と可能性を感じることのできた時間でした。

本間氏のファシリテートで〝学び〟が加速度的に深まる

大人が高校生の話に耳を傾けるグループワーク

「越境体験」「越境学習」は、経済産業省が推奨するイノベーション推進人材の育成施策のひとつで、「越境」の名の通り、所属企業とは関係のない外部企業等において、フルタイムまたはそれに準ずるコミットメントによって、当該企業等の業務に携わる経験を指し、他社留学や社外留学と呼ばれることもあります。「越境体験」では、ホーム（所属組織）からアウェイ（外部企業等）へ移動し、再びホームに戻ってくるというプロセスを経ることで、アウェイで習得したスキルやノウハウ、新たな気づきや学びを、所属組織におけるマネジメントやイノベーションの着想等に反映させることが期待されます。この「越境体験」を高校生向けにシフトしたプログラムがアスバシの「越境型インターンシップ」なのです。

本間正人氏は、「クロスオーバーキャリア」を「人生の様々な構成要素を有機的に組み合わせ、そこに生じる相乗効果を最大化するようにキャリアを開発する発想と方法」であると定義し、「本業」の位置づけにおいて、ドラッカーの提唱した「パラレルキャリア」（キャリアの開拓を目的として本業とは別に複数の仕事に従事すること）とは異なる視点に立つ考え方として捉えています。「ホーム→アウェイ→ホーム」というフローで「ホーム」へのフィードバックが担保される「越境体験」は、パラレルキャリアとは異なるクロスオーバーキャリアの典型的な例として捉えることができます。

「学習学」の提唱者でもある本間正人氏は、最終学歴を重視するのではなく「最新学習歴を更新し続ける」ことが重要である点についても触れ、世代・年代を問わず学ぶ姿勢を持ち、自身をアップデートし続けることの必要性を説く場面もありました。

## 高校生キャリアサポートネットワーク・キックオフミーティング

マイチャレンジ・インターンシップ報告会に先立ち、CSN（高校生キャリアサポートネットワーク）のキックオフミーティングを開催、毛受代表より少子化による若年労働力の減少と企業の早期労働力確保及びキャリア形成に関する社会的課題及び高校生キャリアサポートネットワークの目的と高校生インターンシップの可能性について共有しました。また、新たに改正されたCSN運営規約について若干の補足説明をしました。

キックオフミーティングの内容とCSN運営規約について、ご意見やご不明な点がある場合は、CSN事務局アスバシ（毛受・斉藤・浦野）までお問い合わせください。

一般社団法人アスバシ
〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町8-5 愛知私学会館東館3F
□TEL / 052-881-4401 □FAX / 052-308-3284
□URL https://asubashi.org/ □e-mail / jim@asubashi.jp

Asubashi
アスバシ ― 明日の社会に架ける橋